

# このスポット・おすすめ!

あの人気カフェがリニューアル  
島素材の自家製ジェラートを販売  
島ジェラート&カフェ ISOLA (イソラ)



地産地消を基本にメニューを開発  
素材以上のおいしさを味わって  
パスタなどのランチが好評の人  
気カフェ「ISOLA」が、今年4  
月から満を持して、自家製ジェラ  
ートの販売をスタートしました。  
入口のドアを開けると、色とりど  
りのジェラートが10種類ほど並ん  
だショーケースがお出迎え。気軽  
にテイクアウトできるのももちろ  
んのこと、ちよこごと一休みでき  
るイトインスペースも完備。手  
みやげや贈答用に、おしゃれな専  
用ボックスも用意しています。  
「ジェラートの開発・販売は、オ  
ープン当初から温めていた計画  
です。ひびくや実現できましたと  
案内してくれたのは、オーナーの  
上地匠さん(息子さん)と大妻。店名  
を「島ジェラート」にしたのは、  
沖縄の素材を生かした地産地消  
のオリジナルメニューを次々と  
開発。果物や野菜の収穫時期に合  
わせて、ショーケースに並びジェ  
ラートの種類も少しずつ入れ替わ  
ります。着色料や保存料は一切不  
使用。「素材そのものを食べるよ  
り何倍もおいしく感じられるよ  
うに、真心込めて手作りしています。  
ぜひ味わってみてください!」と  
2人は笑顔で話しています。  
食事はできなくなつたの?と  
心配しているリピーターの皆さ  
ん、ご安心を。3種類のランチセ  
ットに加えて、その日のオススメ  
を黒板メニューで紹介していま  
す。食事と一緒にジェラートを注  
文すれば、好みのフレーバーを2  
種類セツト割引(通常より150  
円引き)でも得に楽しめます。

住所: 読谷村楚辺 1133 No.122  
電話: 098-957-0770  
時間: 11:00~18:00  
休み: 日曜日、祝日  
駐車: あり  
最新情報は SNS で随時発信  
Facebook → @gelato.isola  
Instagram → @isola.gelato\_cafe  
(おもなメニュー)  
\*ジェラート  
トリプル 500円、ダブル 450円、シングル 380円  
\*プレミアムフレーバーは要別途料金  
\*ランチセット.....950円~  
(好みのジェラートを2種類300円でプラスできます)  
\*ジェラートドリンクセット.....700円  
(指定のドリンク+好みのジェラート3種類)



# Fresh WINDS

人と人とのつながりを大切に...池原建設が大切なお客様にお送りする手作り広報誌

fresh Winds  
2017年  
7月号  
Vol.154  
TOKYO 2020



## 読者プレゼント

このスポット・おすすめコーナーで紹介の『島ジェラート&カフェ ISOLA』で使える



Q なぞなぞ  
よんでもよんでも返事をしないものはなに?  
図書館に  
たぐりかえり

6月号当選者 前号の答え(段ボール)  
★比嘉 芳枝さん(読谷村在住)  
★照屋 リエさん(読谷村在住)  
★小淵 富枝さん(読谷村在住)

## ワイワイ広場

### 読者プレゼント応募方法

宛先 読谷村字伊良皆237-1 ワインズ『広報誌係』

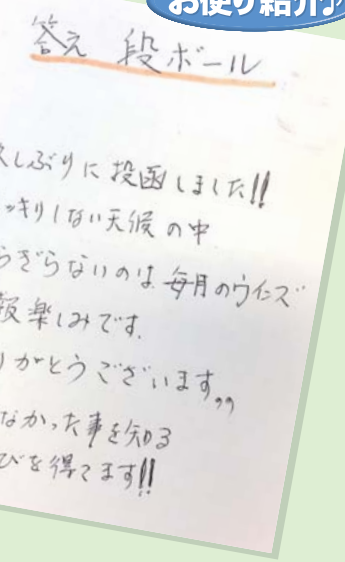
①住所 ②氏名  
③年齢 ④職業  
⑤電話番号

裏 ⑦ご意見 ⑧ご感想

応募者の中から抽選で、読者プレゼントを進呈致します。どしどしご応募下さい!

締め切り 2017年7月20日消印有効  
「当選者は次号(Vol.155)にて発表致します」

『Fresh WINDS』は、建築でお手伝いをさせて頂いた施主様をはじめ、地域にお住まいの方など、ご縁をいただいた皆様に配布しております。諸事情により配布不要となった際は大変お手数ですが、その旨ご連絡下さい。(ウインズ広報誌係)



### 今月の歳時記

- 7月8日(土) 第34回 ピースフルラブ・ロックフェスティバル 2017  
会場・開催地/沖縄市・コザ・ミュージックタウン
- 7月15日(土) 海洋博公園サマーフェスティバル2017 (第39回海洋博公園花火大会)  
会場・開催地/本部町・海洋博公園 エメラルドビーチ
- 7月22日(土)・23日(日) 第40回 浦添でだこまつり  
会場・開催地/浦添運動公園、浦添市でだこホール、牧港漁港
- 7月22日(土)・23日(日) 第34回 うんなまつり  
会場・開催地/恩納村コミュニティー広場

梅雨明けとともに本格的な夏が幕を開けました。恒例の「海洋博公園花火大会」をはじめ、週末ごとに県内各地で夏まつりやイベントが続々と開催されます。気象庁が今年は「スーパー猛暑日」が多い夏になるとの見通しを発表しています。お出かけの際には、熱中症対策・紫外線対策をしっかり心がけましょう。



(株)池原建設 企画事業部ウインズ  
〒904-0303 沖縄県読谷村字伊良皆 237-1  
営業時間 / 9:00~18:00 (年末年始を除く)

住宅のメンテナンスや  
補修等のご相談は、お気軽に  
スタッフへお声掛け下さい!

☎0120-229-512 ウインズ 池原建設 検索

# Street Story!

「きらめくユーバンタタタ焼けコンサート in 楚辺」開催から1年  
誇れる地元を次世代へ継承するために私たちができること



■昨年のコンサート当日の様子。7月16日に「前夜祭コンサート」、17日に「ユーバンタタ焼けコンサート」を実施。2日間とも晴天に恵まれ、見事な夕日を見ることができました

読谷村楚辺区の住民が主体となって16年ぶりに企画を立ち上げ、一つの字(あざ)のイベントとは思えないほど大きな反響を呼んだ「きらめくユーバンタタ焼けコンサート in 楚辺」の開催から7月17日でちょうど1年。「次回はいつ頃？」との声や期待が高まる中、1年前を振り返っての改めての感想と、今後の展望・計画などについて、実行委員会の皆さんに話を聞きました。

## 『艦砲め喰えー残さー』歌碑建立3周年 何気ない会話から 自発的に組織を結成

この日のためにつくられた海上の特設ステージで、Kiroro、河口恭吾、でいご娘ら、沖縄ゆかりのアーティストが豪華共演。ユーバンタの自然の砂浜がそのまま客席になり、前夜祭を含めて2日間で集まった観客は約8000名。お祭りの縁日さながらに出店も並び、砂浜の脇には地元・読谷村楚辺区の子どもた



■大物アーティストに交じって、光の子幼児学園の園児たちが和太鼓を披露。楚辺区と20年以上の自治会交流をしている鳥取県米子市淀江町の児童も招待しました

## 感動・称賛の声が 続々と届く 若い世代・他の地域への波及に期待

コンサートの模様を生中継したFMよみたんには、「とても一つの字が企画したイベントとは思えない」、「毎年開催してほしい」といった感想が続々と寄せられました。これを受けて実行委員会の皆さんは、「ありがたいことですが、やっぱりパワーが要ることだからね。もう少し充電期間を下さい」と苦笑い。それでも既にぼんやりとした構想はあるようで、次のタイミングを虎視眈々と伺っているようです。

一方では「私たちの企画・運営方法を、若い世代がどう受け止めてくれたか」に強い関心を持ち、「規模は小さくても、コンサートに限らずどんな形でもかまわないから、一人でも多くの若者が触発されて、次のアクションを起こしてくれたいことを期待したいですね」。昨年の主要メンバーは、16年前の開催時を中心となつて動いた面々です。イベントとしてのクオリティが前回と比べて飛躍的に向上したのは、とりもなおさずメンバー一人一人が社会人として積み上げてきた経験・知識・技術・人脈



■準備していたオレンジのユニホームが足りなくなるほど、たくさんの区民が積極的に参加してくれました。この美しい砂浜と思い出をいつまでも

## 『平和を守り、命をつなぐ』がサブテーマ かけられるイベントに

と夕日がきれいな景勝地であると同時にどんな背景を持った場所であるのか、改めて確認しておきましょう。「ユーバンタは、世立て(世がはじまった)のハンタ(崖)」の意で楚辺集落発祥の地とも言われ、地域の人々に親しまれてきた愛着の深い場所でもあります。一方、このユーバンタをはじめ楚辺の海岸一帯は、沖縄戦における米軍の沖縄本島上陸ポイントともなりました。2013年にはユーバンタからほど近い地に、沖縄戦に巻き込まれた民衆の悲哀が歌いこまれた



■コンサート当日に向けて、楚辺区出身で「ふるさと親善大使」にも任命されたKiroroのお2人が、地元の子どもたちに合唱を指導

楚辺出身のでいご娘による名曲「艦砲め喰えー残さー」の歌碑が建立され、平和への願いが託されました...



■沖縄戦で家族を失った悲しみを歌った「艦砲め喰えー残さー」の歌碑は2013年6月23日に完成。そばにあるボタンを押すと歌が流れます

16年ぶりのコンサートのサブテーマは、「平和を守り、命をつなぐニライカナイの浜へ」に決定。この方向性に沿ってメンバー全員が自由に闊達に意見を出し合い、お互いに協力し合いながらアイデアを形にしていきました。開催日から逆算して種を植えたひまわり迷路をはじめ、会場までの沿道に手作り風車を飾ることも、オープンニングでハトや風船を飛ばすことも、ステージ後方にヤシの木をセッティングすることも、ふと誰かが口にする「いいね、やろうやろう」と賛同が集まり、実現したものです。またオープンニングの聖

火点火のシーンでは、子ども会から壮年代表の楚辺区長、そして80歳で実行委員長を務めた池原玄雄さんへとトーチをリレーしていく中で、「玄雄さん、戦中戦後と生き抜いて、命をつないでくれたことに感謝し、これからは私たち(区長)や子ども会がつないで守っていきます」といったメッセージの演出もありました。「子どもからお年寄りまであらゆる年代の区民が、直接的であれ間接的であれ、準備段階からかけられるような企画にしたかったんです。継承が一つのテーマですからね。区民のワクワクした気持ちの一つになって、楚辺を誇れる最高のコンサートをつくり上げよう」という大きなうねりを生み出したと考えていました。

このうねりは行政をも突き動かし、「読谷村ノーベル平和賞を夢みる村民基金の助成事業に認定されました。また当初は1日だけの開催予定だったものが、楚辺区からの参加希望団体があとを絶たず、急ぎよ前夜祭の日程を追加。そして前述の通り、楚辺区の住民の人数を約4倍上回る観客が集まり、2日間ともに大盛況のうちに幕を閉じました。

などが、そのまま形になって表れた結果ともいえます。昨年のコンサートを通じて、「平和を守り、命をつなぐニライカナイの浜へ」とのテーマが、狙い通りに幅広い世代と共有できたのだとしたら、今度はその意思を継ぐ担い手を継承する番。「私たちが取り組んできたことは、他の字、地域でも同じようにできると思うんですよ。楚辺の取組みをぜひそれぞれの場所参考にしてもらえたら」と話す皆さんの思いが、世代・地域を超えて多くの人に届くことを期待しましょう。